

子供の不安をやわらげるためにできること

【作文を書くことが苦手な子供への理解と支援】



習志野市総合教育センター

子供の様々な変化に不安を抱える保護者の皆様へ・・・

6月に入りました。梅雨の走りでしょうか、雨の日が少しずつ多くなってきたように思います。梅雨が明けるとあっという間に7月。夏休みの時期へと移っていきます。少し早いですが、夏休みの宿題にも関連して「作文を書く」ことについてお伝えできればと思います。

◇お話ができるのに作文が苦手な子

・「作文が苦手な子」

『お話はできるのに、作文になると2行しか書けない』『楽しい思い出はたくさんあるのに、文章にすると状況が全く伝わってこない』お子さんがいます。「思った通りに書けばいいのよ」「楽しかったことを思い出して書けばいいんだよ」と声掛けをしたことはないでしょうか。そして、国語は苦手ではないはずなのに、どうして作文になると書けないのかしらと悩まれる方もいるのではないかと思います。それでは子供はどのようなことに悩んでいる場合が多いのでしょうか。

・「何を書いたらいいのかわからない」「感想が思いつかない」

作文を書くことが苦手な子供の中には『書くことの焦点を絞れない子』『過去に体験したことを鮮明に思い出せない子』がいます。そのため、何から書き始めたら良いのかわからず、思い出せたことに対する感想だけピンポイントに書いてしまうので、短い作文で終わってしまうのです。また、『思い出す』と『文字として表出する』が同時に行われるため、苦手としている子供が多いのです。

・「思い出をつなげていこう」

長い作文を書くために、思い出の木『メモリーツリー』を作ってみるのも一つの手です。子供に出来事に対して「一番楽しかったことは何か」を聞くと「〇〇が楽しかった」と答えると思います。その思い出を書き出し後、子供にいつ・どこで・だれが・どのようなことをして・どうなったかなどの質問をすることで、思い出が少しずつふくらんでいきます。それを木の枝のように結んでいくことで、思い出が鮮明になっていきます。あとは思い出をつなげていけば文章になっていきます。他にも、もう少し思い出を思い出せる子供には『思い出の箇条書き』も有効な手立てです。箇条書きをしていくと、思い出せる内容の時系列がバラバラになってしまうことがあります。

そのようなときには、子供に寄り添って一緒に考えてあげると良いと思います。いままで作文が上手く書けなかった子供は長い文章を書くことができたときに「やった!」「うれしい!」という成就感を味わうことができます。そこから学習意欲の向上につながっていくのです。ぜひ試してみてください。



お子様の心の変化や登校渋り等でお困りの時は、総合教育センター教育相談を御利用ください。
総合教育センター 教育相談(047-475-8341) 青少年テレホン相談(047-475-7867)
特別支援教育相談(047-476-0210) 適応指導教室「フレンドあいあい」(047-471-1236)